

すべての子どもに入院・通院とも高校卒業まで医療費助成を!

子どもの医療費助成事業、新潟県は来年度から交付金化か 県の子ども医療費助成に対する責任後退は許されない

新潟県は2016年度からこれまでの市町村への医療費助成制度を変え、「自由度を高め子育て支援事業にも使えるように」と交付金化しようとしています。

左表は県内自治体における子ども医療費助成制度の4月1日現在の状況です。すべての子どもに入院・通院とも高校卒業までが10自治体となり、すべての子どもに入院・通院とも中学校卒業までは17自治体となりました。一方、新潟県はとう

ろ、入院も通院も3人以上の子どもがいる場合は高校卒業までが対象ですが、子どもが2人までの保護者にたいしては入院が小学校卒業まで、通院が3歳未満までとなっていて、県内の市町村の水準を大きく下回っています。

こうしたなかで新潟県は交付金制度を創設しようとしています。市町村に対する助成は子ども1人当たりで計算される見込みです。関係者からは、「交付金化された場合は、県の責任が後退するのではないか」「これまでよりも医療費助成の水準が低下するケースも出てくるか

子どもを高校卒業まで助成した場合の半額を県が交付するようにはすべきだと考えています。改善求めて、運動していきましよう。



【ウツボグサ】シソ科の多年生的一种。漢字で「靱草」と書きます。日当たりのよい道ばたなどで群生しています。花の色は紫色で、6月から8月にかけて咲いています。花穂は薬草としても使われています。吉川区にて14日撮影。

新潟市の齋藤弁護士が 市の入札で申し入れ

上越市の入札で新たな動きが起きました。新潟市の齋藤裕弁護士が17日、村山市長に入札に関する申し入れをしたのです。

申し入れ書によると、直江津南小学校北校舎棟老朽施設改造機械設備工事他1件の入札に連して、上越市管工事入札参加資格業者が株式会社セイセツ及び株式会社イズミが取引している複数の企業に対し、両社と取引をしたら自社との取引を打ち切るなどの圧力をかけたとのことです。この圧力の結果、株式会社セイセツ及び株式会社イズミは入札の見積書作成に支障をきたしているとしています。

駆けつけ放水訓練視察

上越市消防団吉川方面隊の演習が14日、行われました。私は原之町の場合谷池で行われた駆けつけ放水訓練を視察しました。

この日は駆けつけ放水訓練のほか、小型ポンプ操法等の訓練をしました。これらの訓練はいざというときに役立つはず、がんばってほしいものです。

県内自治体における 子ども医療費助成の状況

◎すべての子どもに入院・通院とも高校卒業まで助成 (10自治体)

胎内市、五泉市、十日町市、糸魚川市、関川村、粟島浦村、阿賀町、出雲崎町、湯沢町、津南町

○すべての子どもに入院・通院とも中学卒業まで助成 (17自治体)

村上市、新発田市、阿賀野市、加茂市、燕市、見附市、小千谷市、魚沼市、南魚沼市、柏崎市、刈羽村、妙高市、上越市、佐渡市、聖籠町、弥彦村、田上町

(このうち、阿賀野市、加茂市、見附市、刈羽村は一部高卒まで対象)

もいなど、声も上、がってま、す。私化、交付金の、そのものは、に反対は、しません、が、制度設計にあ、た、つ、は、少、な、く、と、も、す、べ、て、の

株式会社セイセツ及び株式会



はしづめ法一の 活動レポート

No.1712 2015.6.21

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第三六〇回 報恩講の日に

やはりお参りしてよかったですと思いました。先日、初めて、わが家の菩提寺である専徳寺の報恩講・お引き上げに行ってきました。午前に行われた法話など一部しか出ることができませんでしたが、それでも心に残る時間となりました。

この日は朝から日差しが強く、少し歩いただけでも汗ばむ状態でした。予定した時間よりも少し早く着いたので、市道古戦場線の広いところに車をとめて、近くの山をゆっくり散歩しました。ホタルブクロの咲いている場所から、杉林の中に入ると、そこはひんやりした空気が流れていて、古道を思わせるような道がありました。

専徳寺へは石の階段を歩いて上りました。普段は車でさっと庫裡（くり）まで行っていますので、報恩講・お引き上げのときくらいは正式な道をおもったのです。階段の幅は思った以上に広がったですね、三坪はあるのではないのでしょうか。石が丁寧に並べてあり、そして、道の両側にある杉の木はお寺の木にふさわしくどっしりしている。なかなか趣のある空間です。

本堂へ入ると、そこにはすでに二〇人ほどの人たちがいました。稲古、川袋、村屋、原之町、下町など地元の人たちがほとんどですが、なかには柿崎区などへ移住された檀家の人たちの姿もありました。Kさんからは、「久しぶりだね。元気でいになったかね」と声をかけてもらいました。

うれしかったのは大島区の二人の従兄の嫁さんが顔を見せてくれたことです。このうちY子さんからは、「うちのばあちゃんは何回、来ていたんだがね」と教えてもらいました。伯母が毎年、報恩講に来ていたというのは初めて聞きました。伯母が信心深い人だということはある程度わかっていましたが、亡くなった伯母のかわりに従兄の嫁さんが来てくれていると思ったら胸が熱くなりました。

私が座った席の近くには専徳寺の世話人をしてられる村屋のIさんとMさんがおられました。私の目の前にはひしゃくのような形をしたものが置いてあって、ひとしきり、このことが話題になりました。長さ七〇センチほどの竹の柄の先に直径二〇センチほどの竹製のザルがついた道具です。これはお賽銭を入れるためのものということでした。

報恩講は午前十一時からです。ご住職の松村さんの挨拶ではじまりました。そしてメインの法話の一回目がスタートしました。

今回の法話は高田は大町の豊島信さんです。私とは親子くらい離れた若いお坊さんです。豊島さんは法話の中で、お寺の人間としての少年時代の葛藤、人間の暮らしと差別、原発労働などについてふれながら、人としてどう生きるかを語られました。「原発労働は放射能汚染とのたたかいとなる労働だ」などお寺さんの話としてはこれまであまり出合ったことのない、現実の問題にするべくふれたいいお話でした。黒板にチョークで書かれた文字がきれいなものにも感心しました。

法話はこの日、豊島さんが三回されるということでした。一回目が終わったところで、一〇人ほどのお坊さんがお経をあげられました。若者の音楽のような早いテンポのお経は初めてです。お経が終わったところで、二人の世話人さんがひしゃく型のザルを持ってまわると、次々と百円玉が入れられました。なるほど……、考えたものですね。私はこの日、午後から用があり、午前の部だけで失礼させていただきました。本堂から出たとき、副住職から丁寧な挨拶をいただきました。わずかな時間ではありましたが、この日は菩提寺との縁が深まった記念すべき日となりました。

青空元気市が開設1周年

青野十文字近くの広場で取り組まれている青空元気市が今月12日で開設1周年を迎えました。

開設1周年を記念した大売り出しが14日に行われ、私も行ってきました。訪ねたときはお客さんのピークを過ぎた頃でしたが、親子連れなどで賑わっていました。

青空元気市は冬以外の偶数日に

開いています。朝どりの新鮮野菜を中心に安塚のお菓子など周辺部の特産も根気よく売っていますが、少しでも地域をよくしようという意気込みが伝わってきます。

この日は200人を超える人たちが（午前10時半の段階で）が訪れたといいます。よかったですね。市ではわが家のグミも飾っていただきました。みなさん、懐かしがってくれたようです。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月10日(水)	6月17日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.053	0.063
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.053	0.043
名立分遣所	0.056	0.057

痛快、「小便校長は豪雪地のボス」

先日、友人から『小便校長は豪雪地のボス』（株新聞編集センター）という本をすすめられました。著者の田中寛子さん（旧姓永野さん）は旧能生町出身で、ご姉妹の方が吉川区在住です。

この本は50年も前の、代替女性教員だった田中さんの奮戦記。舞台はおそらく浦川原か安塚か、それとも大島か、いずれかでしよう。小便校長とたたかい、女性のストーブ尻あぶりを認めさせるなど痛快なお話です。先生と子どもたちの暮らしぶりは私の記憶と重なります。笑いあり、感動ありの物語で、いっきに読み終わりました。

